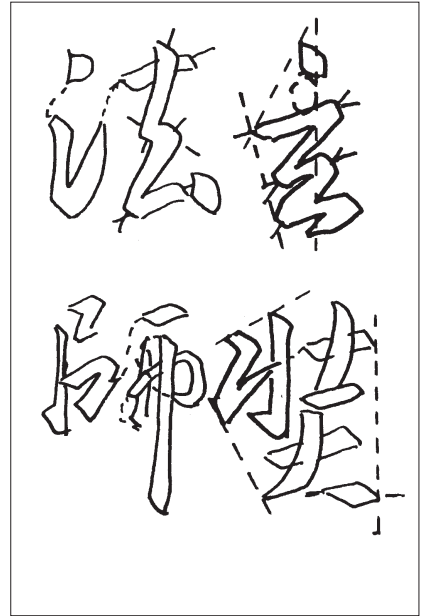


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

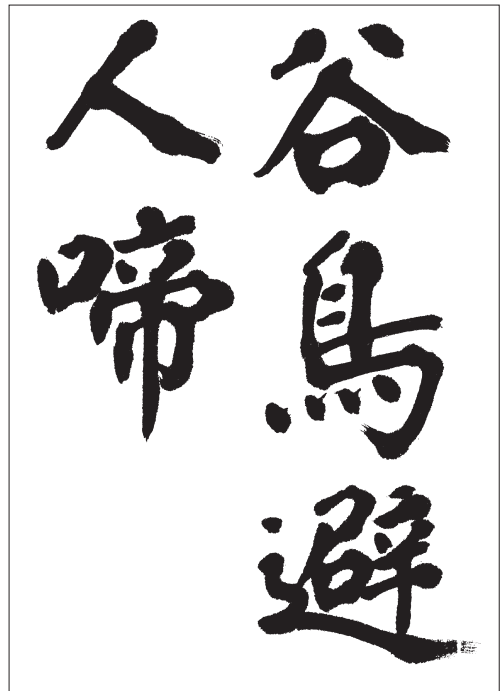


集字聖教序・王羲之

- 1、字句「玄奘法師」
 - 2、形式「半紙タテ使用。右に「玄奘」、左に「法師」と臨書し、左余白に「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。
 - 3、概観「次に、収筆部分での処理があります。羲之書においては、とくに右ハライや之繞しにまわにその特徴があります。
 - ①そのまま右へ押し出す感じ。
 - ②之繞・走などで、押し出す・止める・抜く・上に撥ねあげる。
- ① 令 ② 太 ③ 迷 ④ 首 ⑤ 趣
- など工夫が重ねられています。さらに、連綿線についても考えてみたい。
- ① 直線的な動きの連綿によって鋭さを強調。
 - ② 曲線を多用して穏やかな味わいを見せる。
 - ③ 直・曲の組み合わせによって変化を見せる。
- 4、各字のポイント
- 玄 一画目の点を稍右に打つことにより重心を右に。間を空け二画目以後、横画・斜画同じ方向。
- 奘 上部を横幅広く。「土」の縦画右に倒し、「大」の三画目は真横に。法 意連綿。傍の横画・縦画は共に方向を変えている。
- 師 傍の三画目は二画目の左側より入筆。収筆の懸針は長く。

半紙課題(予告)

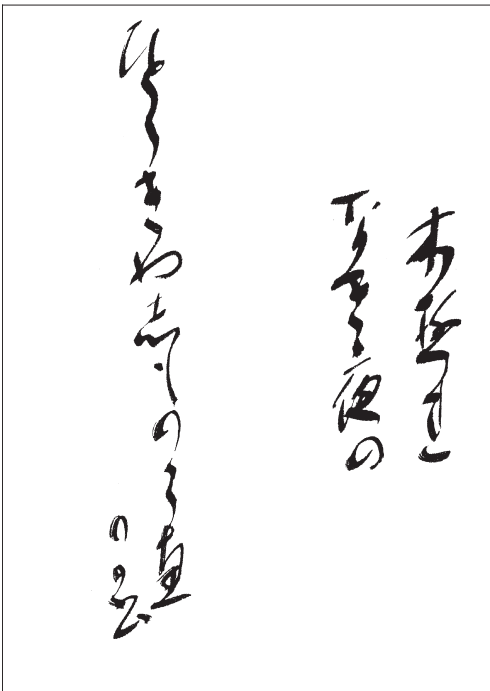
(十一月二十二日締切)



平岡華雪先生書 谷鳥人を避けて啼く(盧之翰)

訳：谷間の鳥は姿をかくしてさえずる。

平岡華雪先生書 木揺れなき夜のひとときや霜の声(乙字)



A
鈴木静村先生書

雁將秋色來平野 鴉帶寒光過遠林 (梁潜)
雁は秋色を將て平野に來り、鴉は寒光を帯びて遠林を過ぐ。



B
高橋香樹會長書

雁 “雁”と同字。野 墨継ぎ。寒 内部筆順縦横横。過 墨継ぎ。“高”の崩し字典で確かめを。遠 字典で確実に覚えること。草書体の崩しは、一般的なものを確実に覚え込むことが大切。画の接筆、回転、省略、点の有無等、細かいところを間違いないく覚える。



行草単体による作。今回は連綿線を使用していませんが、前字の収筆から次字の起筆への意連綿になっています。前字の収筆後次字の一画目を書くことで、この意連綿が発生します。故に、身体は次字の一画目を書いてから移動するようにします。この時、前字の収筆は次字へ向かって筆を引き抜き、次字の一画目の起筆では前字からの動きを受けける形とします。

訳：雁は秋色をおびて平原におとずれ、鴉は秋の光をうけて遠い彼方の林を飛びゆく。

予告 (十一月二十二日締切)

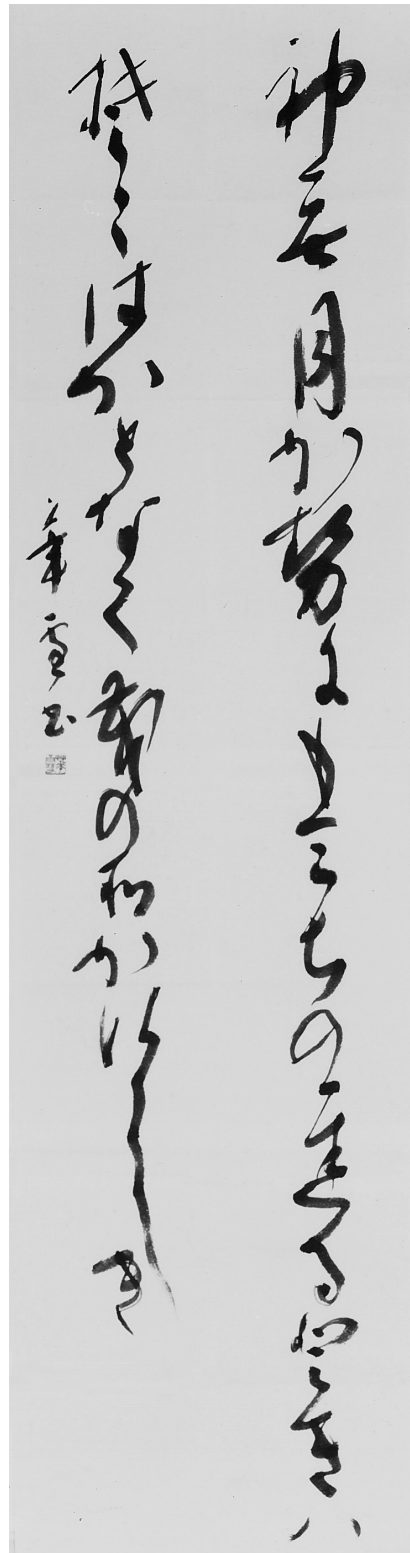
黄花紅葉滿秋山 月浸銀河夜未闌 (元詩選)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

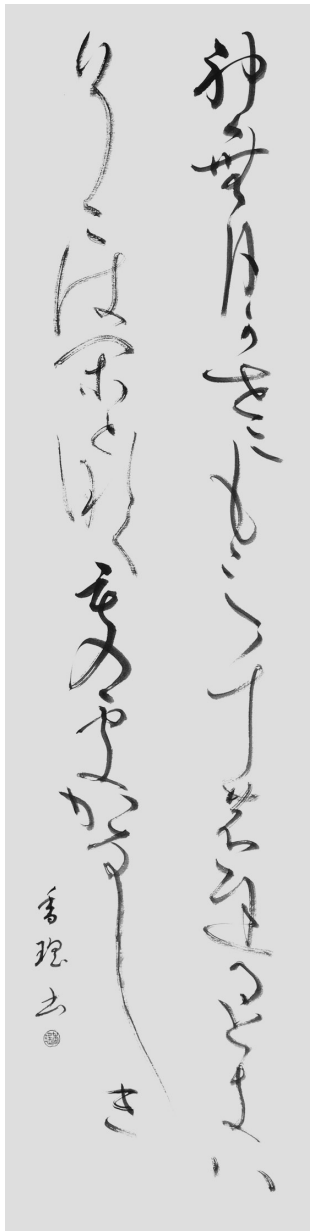
神無月風に紅葉の散る時はそこはかとなくものぞ悲しき(新古今和歌集 藤原高光)
神無月か勢せも三みちの遅ちる登とき八楚はこはかとな久く茂もの所そか那なしき



B

内藤香瑶先生書

神無月可か世せも三み千ち農の遅ちると支き八曾はこ波は閑かと那な久く毛もの處そか奈なしき



藤原高光

平安時代の中期の歌人。藤原師輔しほのすけの八男。応和元年(九六一年)右近少将の時比叡山で出家。法名如寛。翌年多武峰に庵を結ぶ。「多武峰少将物語」は出家前後における近親者の悲嘆をまとめた「歌物語」である。三十六歌仙のひとり。「拾遺和歌集」に二十三首。歌集に「高光集」がある。

方 び 学

歌意 神無月(陰曆十月の異称)十月となり風に紅葉が散るを見て、物みなななの衰おとろえゆく悲かなしみを紅葉に託して歌う。
秋の物悲しさを素直に表わそうと、基本的な二行書にしました。一行目上部が細くなったので、二行目上部の渴部「そこはかとなく」で大きく幅を作りました。三回出てくる「か」を「可 閑 加」にしました。

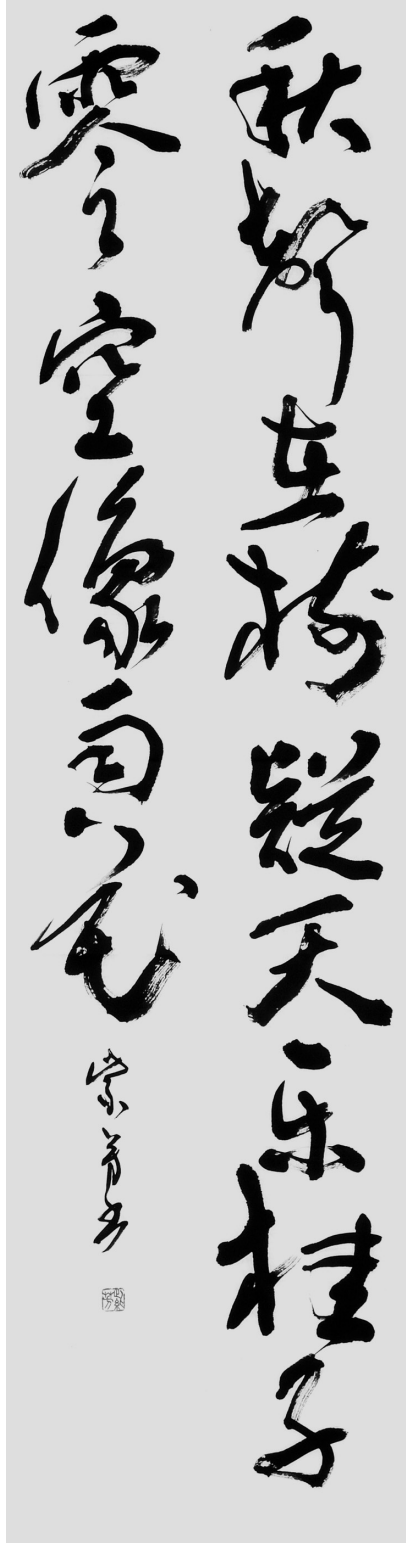
予告(十一月二十二日締切)

風の吹き梢ゆれあふ夕暮は空くれにつつ高く澄むなり(岡麓)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

高橋紫芳先生書

秋聲在樹疑天樂 桂子零空像雨花 (史鑑)
 秋聲樹に在り天樂かと疑い、桂子空より落ち雨花に像る。



訳：秋の風の音は樹間にあつて天上の音楽かとも思われる。桂花は天上より落ちて天女が花をふらすかとも思われる。

福田玉翔先生書

ひる時雨はれゆくなべに現はるる向ひの山の紅葉あかるし (松村英二)
 ひるし九連八れ遊久奈遍二阿らは流、無可悲の山能も三知あ可る志

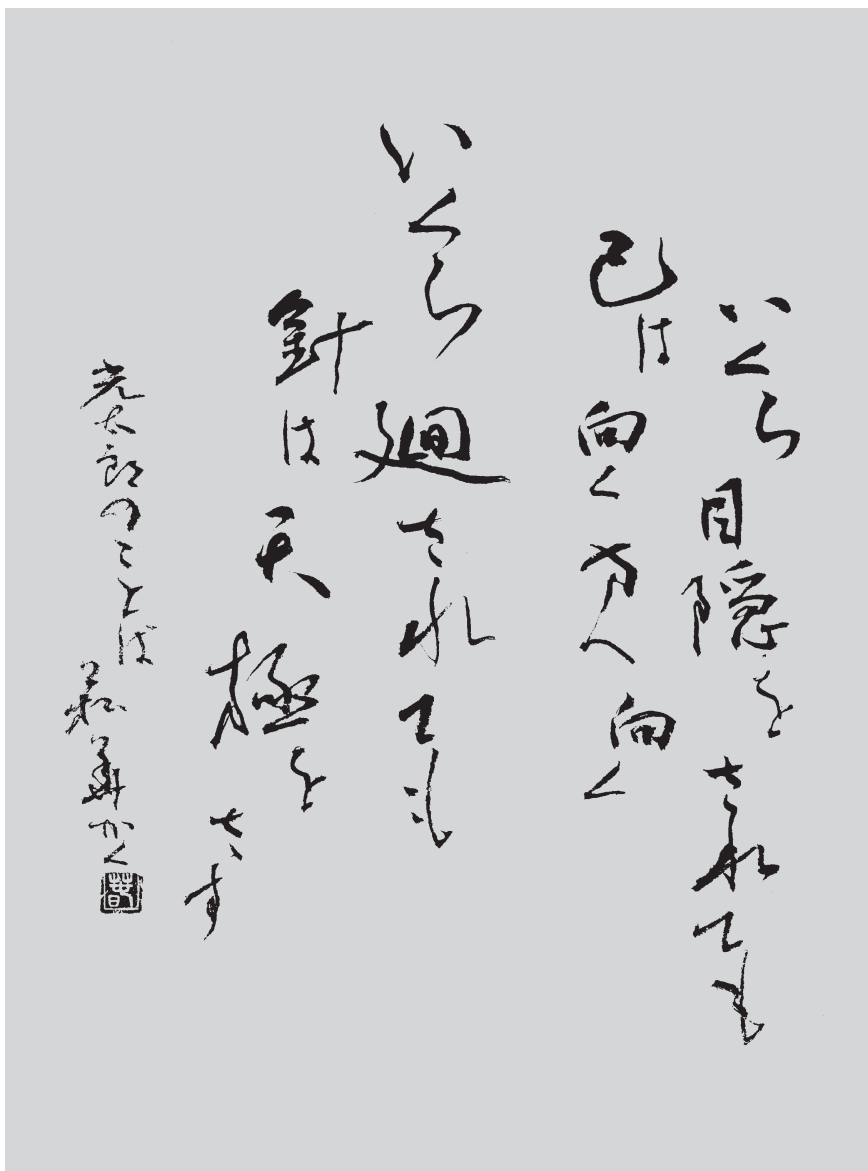


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

小暮 菘華 先生 書

いくら目隠をされても
己は向く方へ向く
いくら廻されても
針は天極をさす
高村光太郎

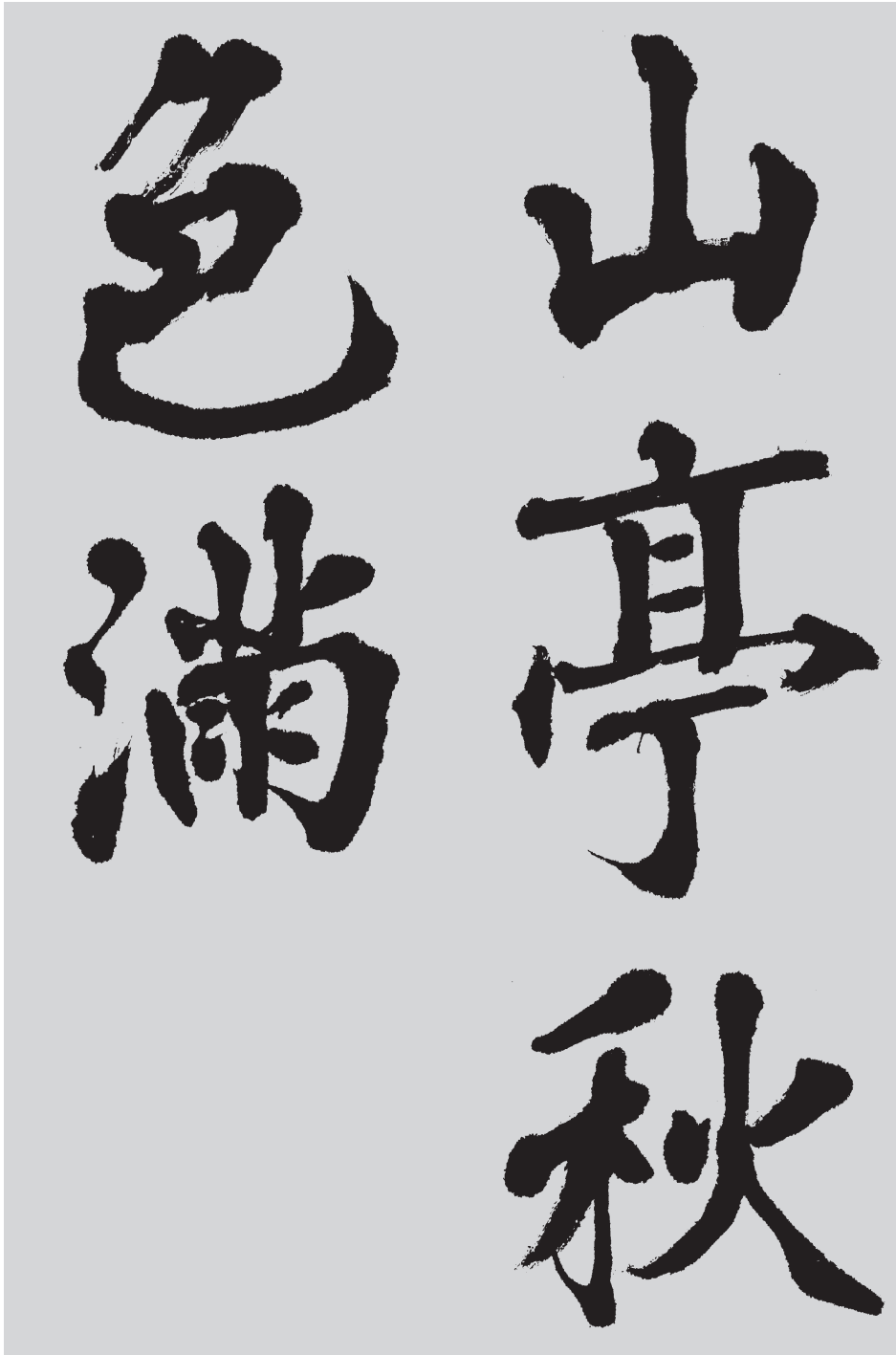
今回は詩を二つに分け、前半は文字を左右に振りつつ行にゆらぎを出し、行を右方に傾け中央部に余白を、そして後半は文字を大き目にして、行が左方に流れるように意識しました。漢字は大き目に、墨量も多目。かなはやや小さく、同じ字は表現を変えました。半紙を縦にして書きましたが横にするのも面白いでしょう。皆さんもそれぞれ工夫してみてください。



高村光太郎 (一八八三〜一九五六)
東京生まれ詩人・彫刻家・画家。父は彫刻家の高村光雲。東京美術学校卒業後欧米留学。ロダンの影響を受ける。詩集「道程」「典型」「智恵子抄」等。妻智恵子も画家として知られる。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

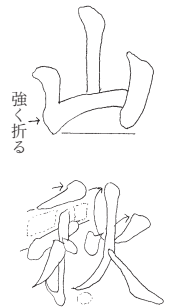
- ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

山亭秋色満つ。(唐太宗)
訳：山のおずまやは秋色が満ちている。

〈筆のまにまに〉
「山 秋 色」既習してきた文字、以前の解説も参考習熟を。「亭」の「口」は古典では、ハシゴ形が多い。末画のハネ字典参照を。「満」この旁、古典では殆どがこの字体。

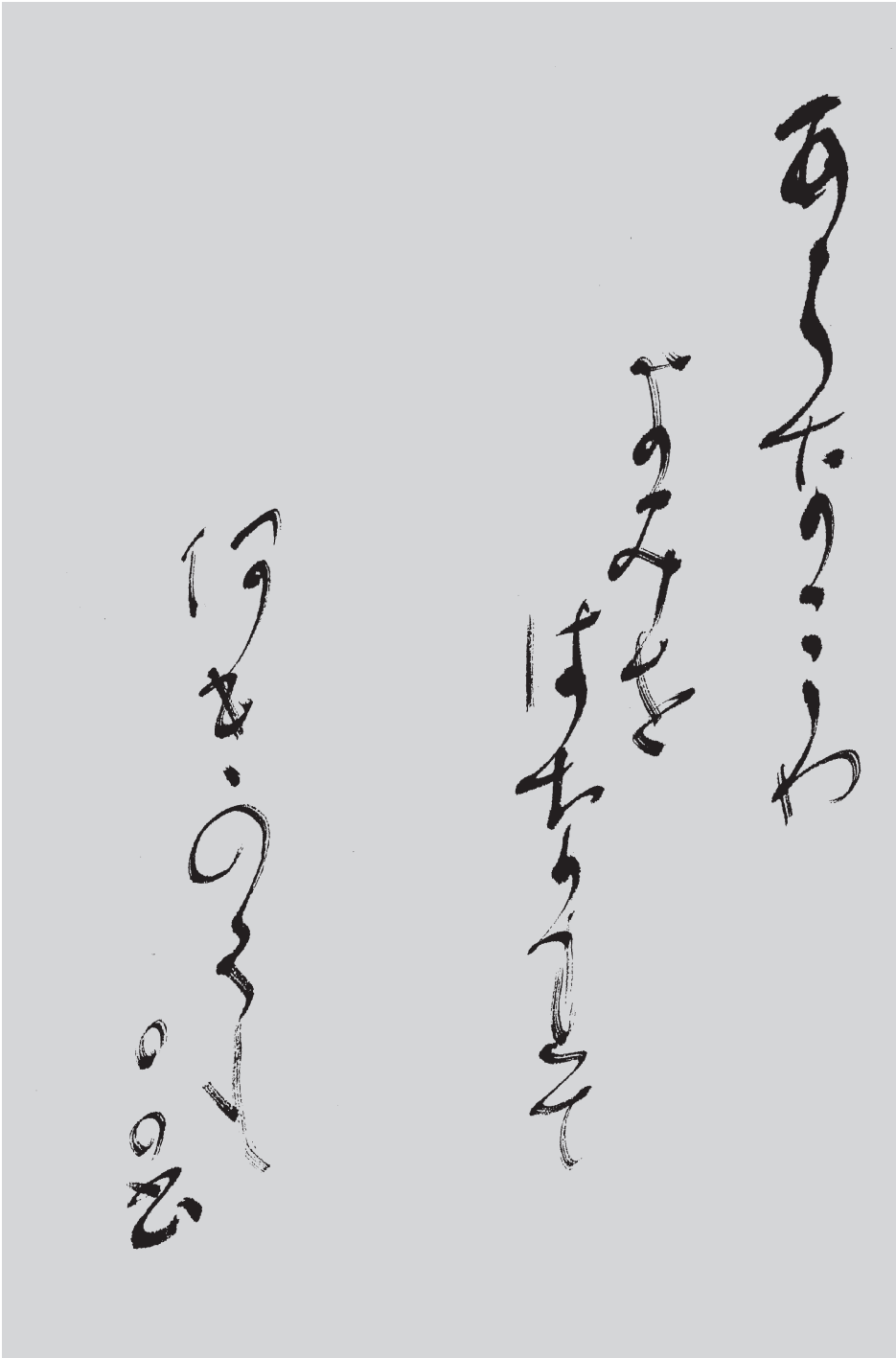


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

荒浪や波を離れて秋の雲（晚白）
あらかな三や奈みをはな連れて阿きの久も



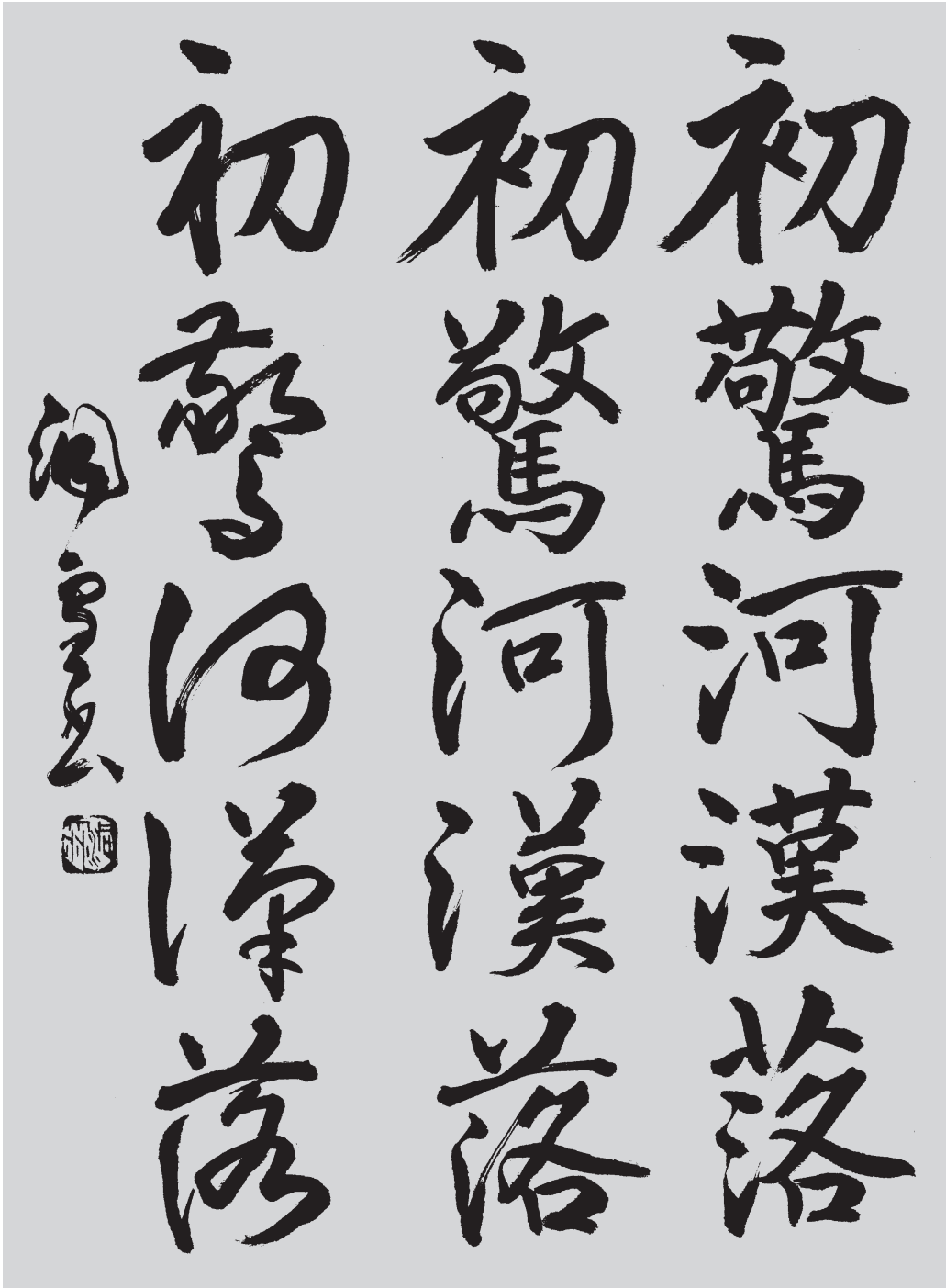
〈全かな文字課題について〉
漢字を含まない全かな文字課題。この種の課題は、初歩段階者には、連綿習熟には格好の素材。一方連綿手法に練達のランク者は、かなは手本通りとして（散らし自由）自己表現を深めてほしい。制約のある中での新味への挑戦も、また新発見へ！

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

加藤洞雪先生書

初驚河漢落(李白)
初め驚く河漢の落ちて



訳：初めて見たときの驚きは、まるで天の河が落ちかかり、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

高山林壑先生書

黄葉滿城都是秋（張養浩）
黄葉滿城都是秋（張養浩）
黄葉滿城都是秋（張養浩）

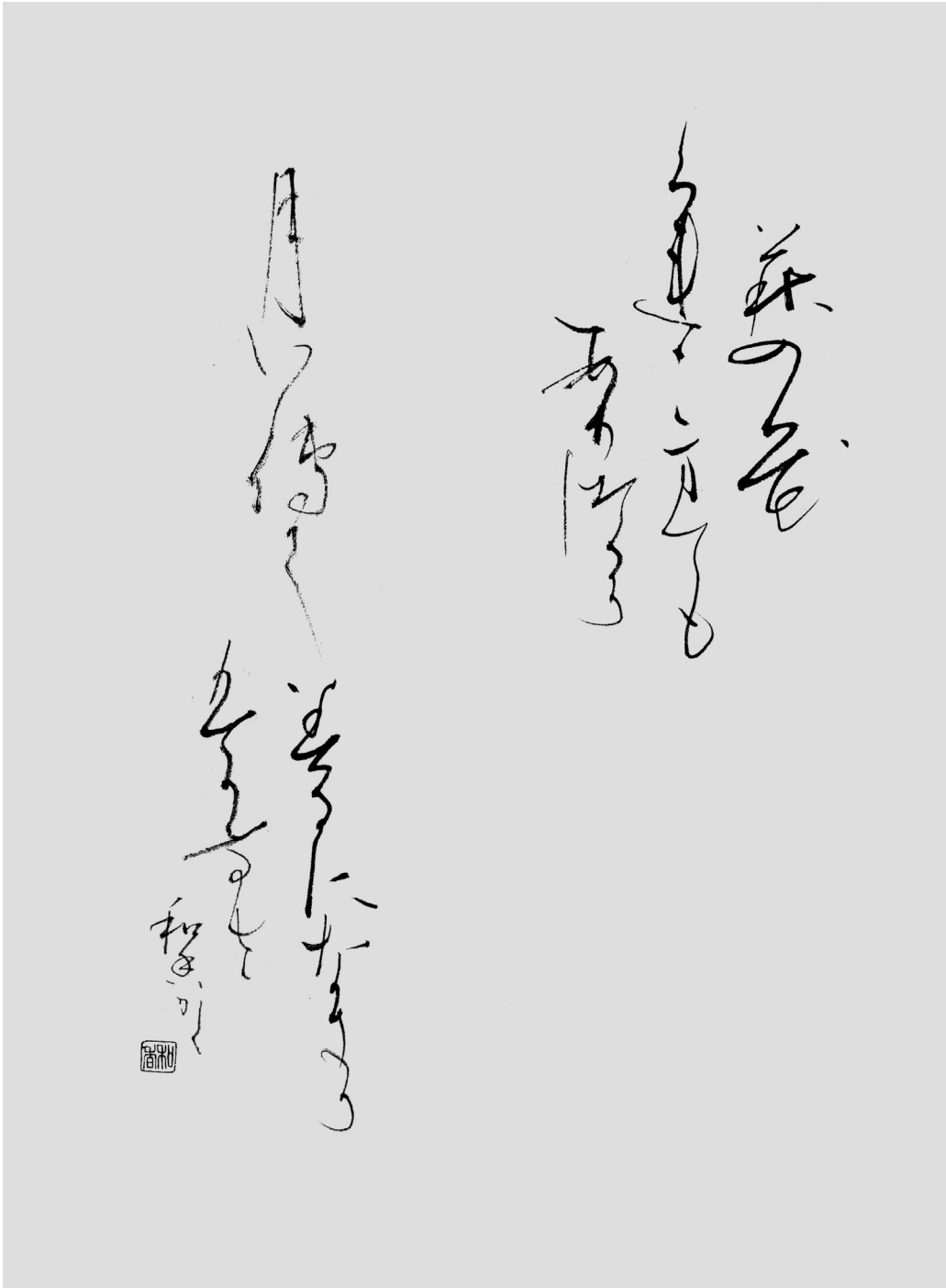


訳：城市一杯の黄葉で到る処はすべてよき秋である。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

随 意 部 参 考

小林和香先生書



萩の花くれぐれまでもありつるが月いでて見るになきがはかなさ (金槐和歌集 源実朝)
萩の花久連、万てもあ利徒る可月い傳与美るにな支可盤可奈左

源実朝

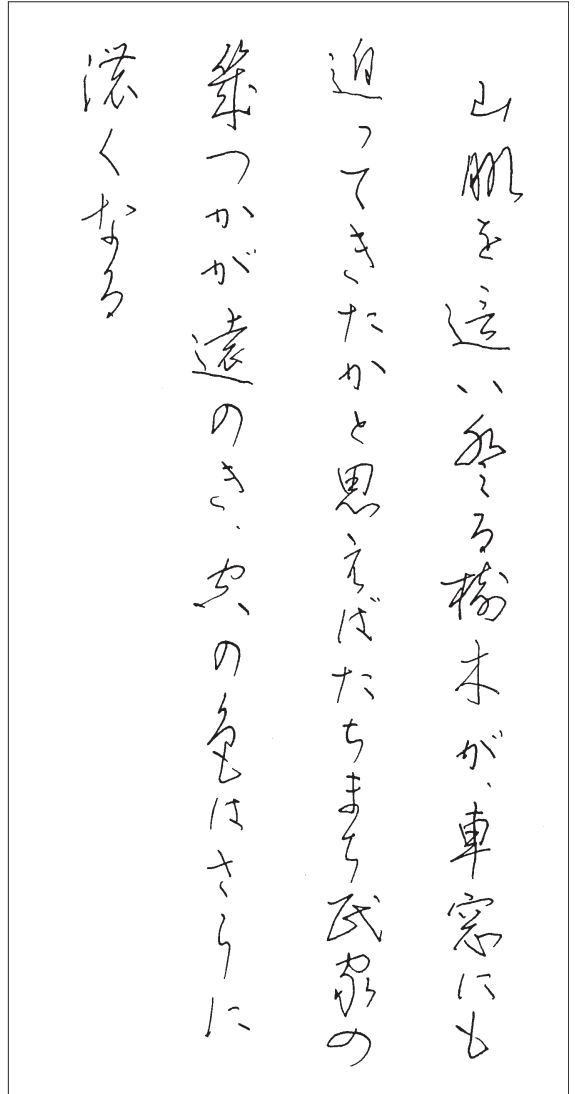
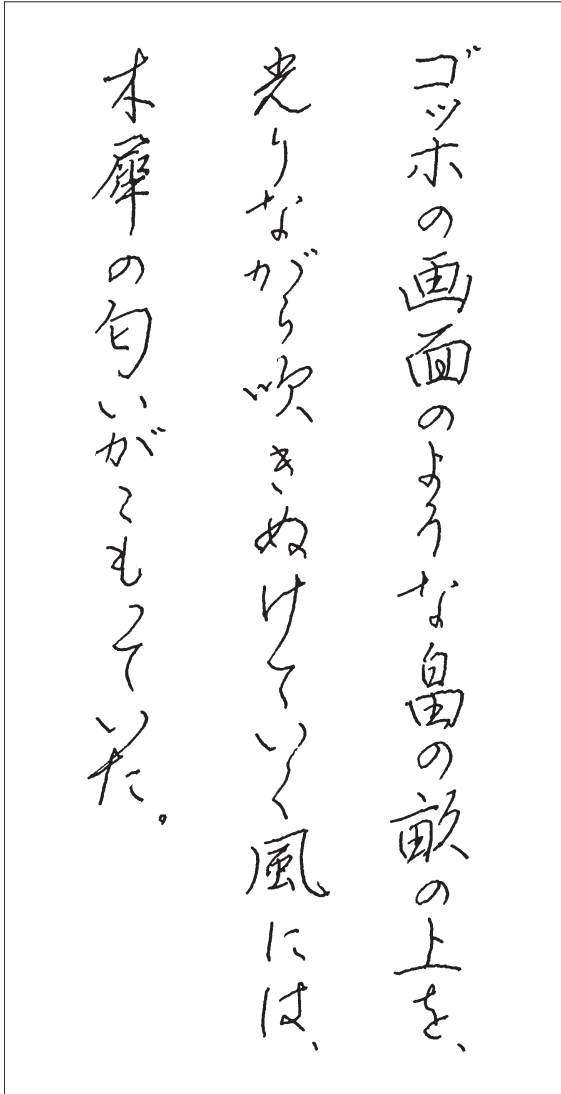
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

稲畑曄穂先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

山肌を這い登る樹木が、車窓にも迫ってきたかと思えばたちまち民家の幾つかが遠のき、空の色はさらに濃くなる。

「飛水」 高樹のぶ子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

ゴッホの画面のような白昼の畝の上を、光りながら吹きぬけていく風には、木犀の匂いがこもっていた。

「夏の終り」 瀬戸内寂聴

研究部課題

(十月二十二日締切)

(課題)

抱樸

(読み) ぼくをいだく

(意味) 老子「見素抱樸」

より

素朴なさま

▽注意

(1) 半切1・2横使用

(2) 書体は自由

(3) 落款は「柳州書」と書き入れること。

▽出品要項

(1) 資格—推薦、準推薦・推薦者(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)

(2) 締切—十月二十二日必着

(3) 成績発表—書廷十二月号誌上

(4) 出品料—九四〇円同封

(5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。

イ、左の出品票(私製)を作品の左下にぶら下げて貼付する。

のりしろ	
研究部	
10月22日締切	
10センチ	5センチ
(支部名) フリガナ	(姓名(号)) フリガナ

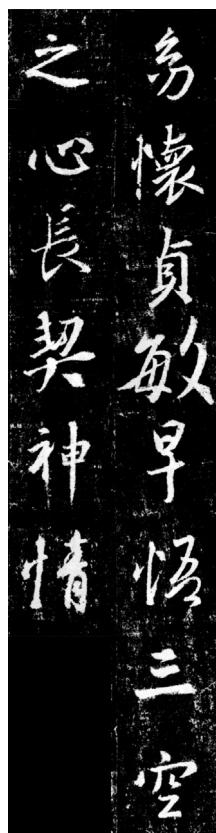
※出品票は審査前に作品から切り離して処理するため、小さすぎないように注意して下さい。

※出品票は必ず楷書で正しく、ハッキリと記入すること。

※名簿作成の都合上、姓名(号)にはフリガナをつけて下さい。

※バーコード券は貼付しない事。

集字聖教序



条幅随意部として

『幼懷貞敏。早悟三空之心。長契神情。』

幼にして貞敏を懐き、早に三空の心を悟り、長じては神情に契り、

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

一字書 (十月二十二日締切)

課題

(1) 書体自由

(2) 半紙タテ ※ヨコは中止

(3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4) 出品料 四四〇円

(5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に

一字と記入 段級は無記入

釣